

協議会ニュース

37号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 1992. 1



ニホンザルの住む自然

協議会会長 大竹 勝

平成4年はさる年ということでニホンザルについて私の考えを書いて見たいと思います。ニホンザルは青森県から鹿児島県屋久島まで生息している日本を代表する哺乳類です。ニホンザルは約30万年前氷河時代に日本列島が大陸と地続きであった頃、ナウマンゾウなどと共に大陸から渡ってきて日本列島に住み着いたけものです。我々人間が住み着くよりはるか昔から日本の自然と共に生きてきた動物です。ニホンザルの生活圏は広葉樹林で針葉樹林には住むことができません。近年の植林化により広葉樹はスギやヒノキの林に変化しサルの住める林がどんどん姿を消してサルの住み場所がなくなりつつあります。特に最近は農作物の被害があるということで、害獣としてどこでも問題にされ駆除されています。このまま推移すれば21世紀には姿を見るのが困難な希少動物になる可能性があります。これはサルだけの問題ではなくカモシカ、ツキノワグマ、イノシシ、シカなどすべての動物に共通して起きている問題です。

愛知県について考えてみましょう。現在県下のニホンザルの分布域は三河山間部に限られています。50年前には犬山にもニホンザルの群れが住んでいましたが、戦争中の林の乱伐などで姿を消しました。大正12年(1923)東北帝国大学医学部の長谷部言人によって全国ニホンザル生息状況のアンケート調査が行われた。この調査は当時報告されなかったが、この原資料が保存されていて、ニホンザルの大正時代の分布を復元する研究が行われました。この資料で愛知県の分布を調べてみると18の郡からの解答が寄せられている。このうち生息を伝えているのは東設楽郡、南設楽郡、宝飯郡、丹羽郡の4郡に限られ、現在生息している額田郡においては生息しないと報告されています。むろんアンケートへの解答ですから十分な調査の上のものではありませんのでどこまで正確かは分かりませんが、

当時の分布概要を知る手がかりになります。この資料から考えられるのは奥・東三河の山間部と、尾張では犬山だけに生息すると報告されています。ここで生息しないとされた地域に本当にいなかつのでしょうか、現在のように猿害をおこさないで山間にすんでいれば、郡役所では問題にならなかつとも考えられます。もうひとつ重要なことは三河から尾張へかけてのミカワバイケイソウ、シデコブシなどの分布する湿地の多いハゲ山地帯に分布していないことです。犬山でも生息するとされた場所は、木曾川に面した比較的植生のよい栗栖に限られています。善師野から瀬戸へ続くハゲ山地帯やその中に点在する小面積の照葉樹の林には分布していないのです。このように考えると過去の分布から現在まで植生がどのように変化して来たかを知ることが大切になります。

現在ニホンザルは東三河の山間部の本宮山、明神山、日本塙山周辺などに分布していますが、分布域は拡大の傾向にありいずれの地域でも猿害問題がおきています。額田町での調査では、群れの行動域が広いということがわかつてきました。サルたちは広い植林地の中に点在する少ない自然林とその周辺にある農作物に依存して生きています。生息地の自然林を人間が針葉樹の植林に変えた代償を、現在自然から求められているような気がします。農業の機械化と過疎は、畑にはほとんど人のいない状況を作り出し猿害を助ける役割をしています。山に自然林がない現在、このままではサルを山に帰すことは不可能に近く、人はサルとから作物を守るためにということで、サルがいなくなるまで駆除をすることになります。サルがいなくても困らないと言いますが、サルも住めない環境が豊かな自然で、本当に人間にとて住みやすい環境なのでしょうか、いまこそ真剣に考える必要があります。

協議会行事報告

【シダ植物研修会】

- H 3.12.1 於嵩山蛇穴付近（豊橋市）
シダというと同じような形をしていて名前を覚えにくいという感じを持っている方が多いでしょう。そこで、シダに少しでも親しんで戴こうと研修会を計画しました。

当日は、穏やかな天気に恵まれ、講師の福原稔先生（東海シダの会）と生徒15人が、豊橋市嵩山（スセと呼びます）の蛇穴付近でシダの観察を行いました。シダについてはほとんど分からぬという人が多く、微妙なシダの分類に皆さん頭を悩ましていたようですが、それでもシダ分類のポイントといくつかの名前は覚えたことと思います。

シダといっても、カニクサ・ヒカゲノカズラ・トウゲシバなどシダらしくないものに感心したり、日頃見られないハイヒラゴケなどを見たり、シダの意外な美しさに気付いたりもしました。

昼休みの後には蛇穴の中も探検でき、楽しい一日を過ごすことができました。

【理事会】

- H 3.12.15 於竜美丘会館（出席10名）

① 平成3年会計執行状況について

12月時点で収入2,123千円、支出1,406千円。
なお、今後の執行見込みを考え、通信費及び印刷費が予算より120千円程度増加すること、寄付金等が増えたため積立金を30千円増やすことが了承されました。

② 5カ年計画及び平成4年事業計画

5カ年計画の事務局案で、新規事業として、統一観察会、周伊勢湾要素植物調査、自然観察

地マップの作成、研究会の開催、パンフ「自然に親しむためのマナー」の作成、シンポジウムの開催（平成8年）、などが出されました。これに対して、現在行っている全県一斉観察会のようなアピール性のあるものを理由もなく止める必要はないこと、調査は多くの人が参加できるものが望ましいこと、貴重な植物の調査は保護に留意すること、行事や印刷物の発行等に際して子供向けを対象としたものを増やすことが望ましいなどの意見がありました。これらの意見を踏まえて、事務局で計画を再検討されます。

③ 協議会の組織整備について

平成4年度から事務局に運営・普及・調査・編集の4つの部会を設けて事務の分担を図ることとし、そのために必要な規約改正を次の総会に提案することとしました。また、規約改正には、会計の位置付けの明確化、会員資格の緩和（指導員資格の喪失を脱退条件にしないこと）なども加える予定です。

なお、通信費等の増加により経理に余裕がなくなっていることと、事務の省力化、円滑化を進めるために会費の増額も止むを得ないのでとの意見が出されました。



鳳来寺周辺から、南西諸島、名古屋東山丘陵まで

－栽培家から自然保護運動家への道程－

名古屋支部 武田 篤

私のフィールドを語るには、まず、小学校にあがつた夏休みの鳳来寺－三河横原から、始めなければならない。その年の夏休み、安城農林高等学校の演習林を預かる原田氏の案内で山に入り、初めて植物採集と標本作りをおこなった。ノギランとか、ホソバシャクナゲがあったのを、覚えている。この時、クロモジは香りがよいので、つまようじにすると、教えられた。そして、その後も例年のように訪れることがとなった。川で、カジカガエルを取ってきて、水槽に木や草を盆栽のように植え込んで飼ったり、セッコクやイワヒバを川で拾った切株に付けたりもした。本当にこの地の植物に強くなったのは、自分で行けるようになった後年のことだが、流紋岩の一枚岩からなる沢筋には、必ずウチョウランやハナゼキショウがあり、そのまま上には、ホソバシャクナゲやヤマグルマが繁っていた。谷筋にツガ、岩場にヒメコマツと、自然が創り出した庭園のようであった。橋の下の深みには、アユが、藻（現在は、珪藻で飯を食っているのだが）をはんでいるのが見られ、夜になれば、浅瀬で餌を漁る－今思うに－アカザやギギが懐中電灯で照らし出された。川近くの木々には、ヨウラクラン、カヤラン、クモラン等が見られた。柿平駅の上流の岩場には、イワヒバ、セッコク、ムカデランが見られ、拾ってきたムカデランは、ヘゴ板の上でいまも花を咲かせる。鳳来湖の奥へ入れば、ナツツバキやコブシ、ムシカリも見られた。そこから、尾根筋を棚山高原に至る道には、サラサドウダン、コベニドウダン、ミツバツツジ、アカヤシオと5月の連休は、花盛りであった。学生時代、県有林事務所でアルバイトをした折り、小耳にはさんだ白花のシャクナゲも、挿し木でちゃんと庭木になっている。

中学の頃開拓したのが、刈谷、三好方面のた

め池と岡崎の湿地で、もっぱら自転車を利用していた。小堤西池やその周辺で、ミカワタヌキモ、タヌキモ、ノタヌキモ等を採集して、数年は維持していた。確か、文化祭に、栽培品の食虫植物を展示したこともある。イシモチソウは、見かけたが、ナガバノイシモチソウには、お目にかかるなかつた。ジュンサイ、ヒメコウホネ、ヒツジグサ等も採集できた。しかし、今となっては、様子が一変し、池の場所さえ特定できない所も多い。岡崎の湿地周辺では、ウメバチソウ、レンゲツツジ、マツムシソウ等、高原の植物を、海拔数十メートルの地で見ることができた。3月末には、スズカカンアオイの葉裏にギフチョウの産卵があり、4月の終わりには、ヤマツツジが、肌色からピンク、桙、赤、紫まで、モチツツジが、浸透性交雑を起こしながら変異を大きくしている個体群－咲き揃っていた。それが終わると、カザグルマの季節である。残念ながらこの地も、開発計画が立てられているようである。

大学に入ると、ツツジの変異に関心を持ちつつ、南西諸島の方に目が向いていった。西表、石垣、沖縄本島へは、1ヶ月以上をかけて転々とした。西表では、何を見ても感激という陶酔状態で、もうハブなんか恐くなかった。仲間川流域のマンゴロープ林と湿地林がすばらしく、船のチャータもあったけれど、腰まで泥水に浸かりながら移動した。カワセミ7羽が、水面に伸びた枝に並んでいたのが、印象に残っている。植物は、すべて大きく、ナンヨウリュウビンタイは、3メートルにも育っていた。この時拾ってきた、オオタニワタリは、1メートル以上の大株になっている。島の縦断では、セイシカ、サキシマツツジ、タイワンヤマツツジの開花を見ることができた。はぜ残りの種子、崖地に生

えた小苗、挿し穂を持ち帰った。西表のセイシカは、か弱く、実生すら枯れてしまったが、サキシマツツジは、半月以上持ち歩いた挿し穂が活着し、毎年トランペット状の花を咲かせている。着生蘭も、いくらでも拾うことができた。マリウドの滝近くでは、ポットホールで、ミカラタヌキモに再会した。コモウセンゴケは、南方系の幅広タイプであった。帰りは、西海岸の山を越え、大潮の珊瑚礁を歩いた。カサノリやら、熱帯性海水魚、ウミヘビ等、多くの生き物に出会うことができた。オオゴマダラ、コノハチョウ、リュウキュウアサギマダラ等の蝶や、セマルハコガメ、ホオグロヤモリ、キノボリトカゲ等も忘れてはならない。石垣島では、水田の脇で根を洗われて倒れていた、ヒカゲヘゴを背負ってきたが、温室の中でも枯れてしまった。沖縄本島は、与那覇岳へ登ったが、シイ林の中、どこが頂上かよく判らなかった。オキナワセッコクが、1メートル以上のくす玉状に生育していた。倒木上の実生を持ち帰ったが、黒班病で枯らしてしまった。その後購入した株も、やはり耐病性がなかった。ふもとの名ばかりのキャンプ場では、ウジルカンダが太い蔓に幹性花のように花房をつけていた。ソテツの自生地や、隆起珊瑚礁上の植生なども観察した。サキシマハブは、飛び越えてしまったが、毒性の強いハブは、頭を打ち碎かれて虫の息のものを見ただけであった。それでも、2メートルもあるとぞつとする。当時は、ヤンバルコガネもヤンバルクイナも発見されていなかった。もう、あの地も、林道が走り、開発に晒されていることであろう。

屋久島へは、2週間近くかけてほぼ1周と、縦走をした。東海岸では、サクラツツジが咲き、バナナの木にスコールの後の虹は、まさに南国の風景であった。しかし、いったん山に登ると、まだ冬の季節で、花崗岩の風化が織りなす湿地、花之江河は、凍結していた。ボリタンの水も氷だった。尾根筋のヤクシマシャクナゲは、霧氷に固められていた。屋久杉も、まるでカリフラ

ワーのようで、不思議の国に来たようだつた。少し下ると、ナツツバキの赤い幹が白い氷の中に映えていた。大杉谷で、一息つくと、そこは初春で、白い2、3輪咲きのツクシショウジョウバカマが見られた。ちなみに西表では、さらに小型で白1輪のオキナワショウジョウバカマである。屋久島の植物は、厳しい環境のためか非常に強健で、花も木に比べて見事なものが多い。フィルムケースに入ってきた、ナナカマドの芽生えは、着性に適応しているためか、横にばかり伸びたがる。

このあと、10年のブランクがある。しかし、名古屋の平和公園で、トウキョウサンショウウオの繁殖を見つけて、平和公園自然観察会に参加した。後には、大学時代に親しんだ、東山の湿地がゴミで埋まっていくのを見るに忍びず、東山自然観察会を主催し、ゴミ片付けから、湿地の保護作業もやるようになった。東山植物園前のロータリーから南へ300メートル程いくと、東へ分かれ道がある。その東北の角に1つの湿地がある。東の丘から湧き水があり、水路沿いには、シラタマホシクサが咲き、丘側には、力キラン、サギソウ、ミミカキグサ類、モウセンゴケ類、オオミズゴケ、北方系のハリミズゴケ、ミズギボウシなどがあった。ゴミの不法投棄により、中性富栄養化が起きている。しかし、ミズゴケの中は、pH3台である。縁のカーブとトンネルを抜けて、八事裏山に至ると、天白渓のため池だった湿地がある。そこから、尾根を東に越えると、子供たちの遊び場となっている、摺鉢状の裸地「人間地獄」に至る。その向いに、ヒツジグサとヒメコウホネの浮かぶ小池があり、この周辺が、トウキョウサンショウウオの産卵地となっている。この一帯も平成6年の国体に向けた、テニスセンターと取り付け道路の建設で、ずたずたになりそうである。既に、ハッショウトンボの多くいた、碟状湿地「メガネ湿地」は、調査されることもなく、道路となつた。

(1991.12.07記)

観察会報告

財賀寺観察会（11月3日）

東三河支部 天野 保幸

秋を満喫しました。

ムササビの話、分かっていたつもりですが感動しました。だって知らないことがいっぱいあったんだもの。

紅葉には少し早く、秋の草花の最盛期をやや過ぎていましたが、シイの実、マムシグサの仲間の実などいろいろな実が見られました。中心になる華やかなものは少なかったのですが、落ち着いた観察会になりました。そんな中でムササビなどの野生動物の生活痕など、興味深い内容がありました。また、ヒノキバヤドリギなど普段では目につきにくい植物を観察する機会にも恵まれ、こじんまりとした観察会でした。

今回、参加人数の割りには子供が多く、ゆったりとしたペースで行えたことはよかったです。ゆったりとしたペースだったからこそ目についた生物もありました。ホコリタケもそんな生物でした。

・担当 — 東三河支部A班

・下見 — 10/13 内容検討

10/27 現地の状況把握、キット検討

・当日の観察

野生動物の生活痕を探そう（ムササビを中心に）

土の謎（土のできかたと色）

秋の草花（種子の散布・キノコの役割）

ヤドリギの仲間（ヒノキバヤドリギを中心に）

・参加者

一般23人、指導員13人 計36人



尾張支部月例観察会（11月10日）

尾張支部 北岡 明彦

場所：瀬戸市岩屋堂

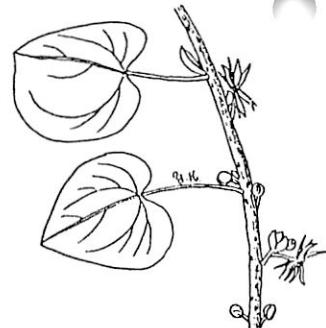
（駐車場～岩巣山展望台～瀬戸大橋～駐車場）

愛知県委託の自然観察会と合同しての月例観察会となりました。大人数が予想され、天候が気づかわれました。

当日はやや曇が多く肌寒かったが、まずまずの観察会日和。受付は、大人54名、子供54名で108名、7班に分かれてスタート。

本日のメニューは①ムササビの生活痕をさがそう ②珍木マルバノキを観察しよう ③ドングリ拾い ④水生昆虫により水質を判定しようの4つです。

なかでもマルバノキ（マンサク科）はちょうど満開。アカヒトデが背中合わせになったような奇妙な花とその変な臭い、独特な丸い葉と紅葉の特徴をしっかり観察することができました。



マルバノキ

前日の下見の時は展望台から名古屋港がバツチリ見えましたが、当日は曇り気味で絶景という訳にはいきませんでした。しかし、日溜まりはポカポカ暖かく、昼食には最高！

メインテーマの水生昆虫は、担当2名が、午前と午後1回ずつ計4回に分けて行いました。15分間の自由採集時間に大物のヘビトンボ・クロスジヘビトンボ・オニヤンマ・コオニヤンマ・コヤマトンボが次々と採れ、サワガニやヒラタカゲロウも登場し、皆が大喜びしました。私が一番気に入ったのはナベヅタムシ（水中のカメムシの仲間）。

参加者は35人のボイイスカウト以外は親子連れが大半を占め、和気あいあいのうちに怪我人もなく無事終了することができました。

参加した人、一人一人が何かひとつでも自分の新発見をして貰えたら・・と思いました。

自然観察施設訪問④

— 滋賀県フローティングスクール

「うみの子」—

中西 正

11月上旬、琵琶湖を訪れる機会があり、その際「うみの子」を見学した。

滋賀県は中央に琵琶湖を抱えるため、早くから環境保全運動が盛んな所である。行政もこの問題には大きな力を注いでいる。このため、学校教育にも生かされることが多い。今後、環境教育は学校教育の中の大きな部分を占めることになろう。滋賀県は、この面での先進県といえる。

「びわ湖フローティングスクール」は教育委員会と連携をとりつつ、組織的には独立している。ただし、その運営には指導主事があたっている。「うみの子」と呼ばれる900tの船を持ちこれが活動施設となる。240人が乗船でき、中には講堂（学習室）・食堂もある。県下の小学5年生は全員この船で学習することになってい。今まで15万人の利用があったという。

一航海は一泊二日で、学校の近くの港から出航し、大津には立ち寄ることを原則にしている。ここが県都であるということと、湖北と湖南の水の色の違い（汚れの具合）を見せせることがねらいだという。水の汚れということでは、船上に用意してある湖北と湖南及び水道の水の透明度も比較する。また、プランクトンの観察もさせる。

今回は大津から琵琶湖大橋までのクルージングを体験した。比叡の山とその紅葉、湖岸に広がる「エリ」、湖面を舞うユリカモメ、湖岸に迫った家々、そして水の色と次々と自然は変化した。しかし、フローティングスクールのプログラムを見ると自然に関してのものが少ない印象を受けた。その中には、スポーツ活動があり、集団活動があり、そして創造活動と称するものと盛りたくさんある。もっと自然環境に重点を置いた方が意味ある活動になるではなかろうか。湖の自然を前にすればきっと素晴らしい

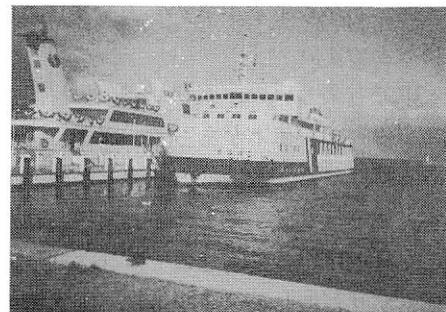
プログラムが組めるであろう。生き物を中心に据えることによって、初めて真の環境教育が成り立つのではなかろうか。この印象からは愛知県に数多くある「少年自然の家」のスタイルを見た。少年自然の家でも、せっかく自然の中にありながら自然に触れるプログラムが少ない。結果的に時間の多くが集団活動に費やされている。

それにしても、子供達を大自然の中に連れ出すことの意義は大きい。その中で如何に自然に触れさせか。滋賀県の「うみの子」を見学して考えることが多かった。

「湖の子」学習活動の日程

時 刻	第 1 日 目										
	10:00	12:00	13:30	17:00	19:00	20:00	20:30	22:00	消灯	就寝準備	自分を見つめる時間
活 動 (乗 船)	出港見学 開校式 オリエンテーション 避難訓練 昼食 (船内見学 船内活動 寄港地活動 夕食・シャワー 「湖の子」のタペ 就寝準備										

第 2 日 目											
6:00	7:00	7:30	9:00	12:00	13:30	14:20	15:30	閉校式	下船	掃除	「湖の子」
起 床 ・ 洗 面	身 辺 整 理 ・ 掃 除	朝 の つ ど い	朝 食	船 内 活 動	寄 港 地 活 動	船 内 活 動	學 習 の ま と め				



砂浜の砂 ——さらさらの秘密

東三河支部 高橋 康夫

砂浜で、乾いた砂を手にすくって見ましょう。指の間から小気味よくさらさらと流れていきます。

砂浜はどんな砂粒できているのでしょうか。それを調べる簡単な方法をお教えしましょう。ガムテープを10cmほど切り、砂におしつけてそっと持ち上げ、ビニール袋に入れぴったり押さえつけるのです。これで砂浜のコピーができました。いろいろな場所でコピーを取って、砂浜のコレクションをつくるのも面白そうです。

これだけでも、粒の大きさや色などがわかりもっと詳しく調べたいときは、「ふるい」を使います。一定の量の砂をとり、荒い目の「ふるい」から順に残る量を計っていきます。そのデータを、横軸に粒の大きさ、縦軸に構成比を取りグラフにします。

—ちょっとひねった自然観察 VI —

冬こそ野外へ！ ムササビ探偵団

尾張支部 北岡明彦

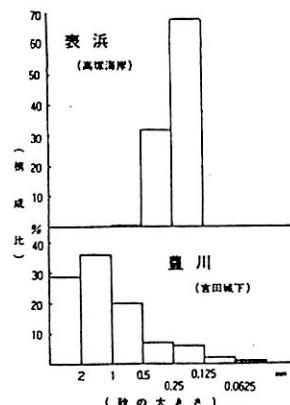
冬はどうしても家から出るのが億劫になりますが、そんな時こそ野外にでるのが自然観察指導員です。

冬の代表的自然観察に動物の痕跡搜しがあります。雪上の足跡や糞・リスのエビフライ（何かわかりますか？）・ムササビの食痕と糞などです。

中でも楽しいのがムササビの生息調査です。スギの大木が何本かあって、周辺に天然林のある神社なら、大抵はムササビが棲んでいます。彼らはリスやノウサギと同様、私たちのごく身近にいる動物なのです。

ムササビ探しのポイントは、①スギの大木皮はぎ ②大木の下のコロコロ糞 ③社殿の木壁に開けた丸穴 ④シイの実・サクラの冬

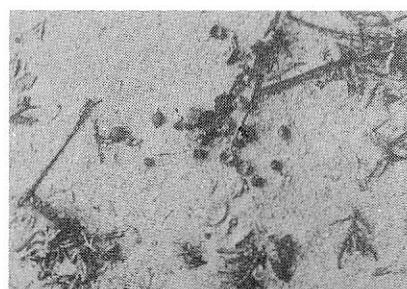
図は「ふるい」を使って調べた、豊川下流の砂と渥美半島の太平洋岸の砂の比較ですが、川砂の大きさにはばらつきがあり、海岸の砂の大きさはほぼ同じところに揃っていて、さらさらしている特徴がよく分かります。



川の砂と海の砂の大きさ

芽・コウヨウザンの冬芽・クスの若枝・ヒノキの冬芽などの食害痕です。これらのうち2つ以上確認できればOKです。

さあ、皆さんも寒空の下、どんどんフィールドへ飛び出しましょう！



ムササビがかじったシイの実と糞

自然だよ！

21世紀あいち万博予定地 ~海上の森~
のみ山だより

尾張支部 北岡由美子

11～12月にかけて、のみ山自然観察会としてはビック・イベントが続き、しかもどれも盛況に終わり、徐々に「海上の森」のことが浸透しつつあるかなと嬉しく思いました。11月17日（日）は海上の里の稲刈り後の田で、人でつくる絵（ビック・アート）をつくり、参加者は約100名で、白い傘でシラタマホシクサの花、人で茎をつくり、その他テントウムシ・ハッチョウトンボを人で演じ、テーマは「自然は友達、Save Green」としました。無料で、海上の森の遠景、中景、近景を航空写真で撮ってもらえるということで応募したのですが、これが愛知県知事賞となり、嬉しいおまけつきでした。また、11月24日（日）の秋の紅葉観察会にも100名ほどの参加者があり、これには尾張支部、名古屋支部の指導員の方にも協力していただき、コナラ・アベマキの燃える秋を楽しみました。まだノコンギクも残り、タカノツメの透きとおった黄やヒヨドリジョウゴのつやのある赤、ムラサキシキブの紫と、色とりどりの秋でした。最後は、12月1日（日）の河合雅雄先生の講演会で、これも約150名の参加者があり、先生の『子供時代に自然と遊んだことが大人になってから生きる活力になる』というお言葉はとても心に響くものでした。



河合雅雄先生講演会

様々な形でこの海上の森のすばらしさを県内の一人一人の方に認識っていただきたいと思います。この森に生きている多くの草木鳥獸、昆蟲類その他を大殺生してまで、万博というお祭りをする権利が私たちヒトにあるのでしょうか？雑木林の冬もまた美しく楽しいです。ぜひ一度おいでください。

～犬山発 Naturing NO.21、12・7～

犬山のカモ情報（大竹 勝発行）

12月6日、木曽川のカモを観察しました。継鹿尾の氷室付近ではほとんどカルガモでマガモが2羽いました。ここで一番多いのはカワウの集団です。鵜沼側にチャートの岩盤が露出している場所で多くのカワウが羽を休めています。採食の時はべつの場所でするようですが、カモのように長く泳いでいるのは苦手らしく、このような岩盤で羽を括げたりじっとしたりして休んでいるようです。一度に沢山の魚を鵜呑みにして採食し、ゆっくり消化を待っているでしょう。ライン大橋のダムの上流では、ことしもカンムリカツブリが10羽いました。あとはカルガモ・マガモ・オナガガモ・カツブリ・コガモですが数年前のように数がいません。この暖かさで釣り人が多いせいでしょう。木津へまわりグランド上流の木津用水の取り入れ口頭首工の川原に出掛けました。ここでは沢山のカモが観察できました。カワアイサが昨年のように20羽以上いましたがメスが多いようです。ハウビロガモ・オカヨシガモも観察できました。この日はほかにアオサギ・コサギ・カワセミ・ハクセキレイ・キセキレイ・トビ・ハイタカ・ハシボソガラス・カララヒワ・ホオジロ・ヒバリ・ジョビタキ・キジバトを観察しました。

愛知の自然観察・

自然研究・自然保護グループ

36号に追加分です。皆さんに知らせたい団体がありましたら、お知らせください。

〔記載内容〕 ①会の名称 ②代表者 ③連絡先
④活動内容 ⑤入会方法・資格 ⑥会費等

①瀬戸自然の会

②金森正臣 ③事務局 瀬戸市ひまわり台3-72
左路伸子 ☎0561-48-1683

④瀬戸市民を対象にして、身近な自然の重要性を認識するための講演会を年1～2回行う。

⑤とくになし

①ものみや山自然観察会

②北岡由美子 ③瀬戸市柳ヶ坪町98-5 ☎0561-84-2953 ④毎月第2・4水曜日、第3金曜日、第4日曜日の月4回の観察会。午前10時愛知環状鉄道山口駅前。午後3時終了。

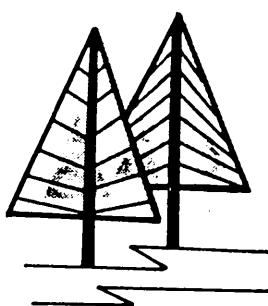
⑥参加費 200円

①面の木倶楽部

②北岡明彦 ③瀬戸市柳ヶ坪町98-5 ☎0561-84-2953 ④毎月第3日曜日（92年度は第1日曜日）に稻武町面ノ木峠ブナ原生林で自然観察会を行ながら生物調査をする。⑥参加費 300円

①瀬戸の環境を考える連絡会

②加藤 昌 ③瀬戸市品野町4-523 ☎0561-41-1466 ④東海環状自動車道・21世紀愛知万博・生き生きビジョン21等の大規模プロジェクトが目白押しの瀬戸市で環境を守るために運動をしてきた団体・個人が連帯して行動する。



新聞スクラップ

愛知県内の名古屋版・三河版などに載った自然に関わる記事を紹介します。

◆サル3時間出没で騒動◆

18日午前9時30分ごろ、蒲郡市三谷町一舗の民家の屋根にニホンザル（体長60センチ・雄）一頭がいるのを、近くの道路工事の人がみつけた。警察管12人と県・市の担当者が追いかけたがサルは自在に逃走、午後0時40分ごろ豊岡町で姿を消した。（91.11.19 読売）

◆安全な越冬地（初立池） カモの群れ◆

冬の訪れを告げるカモの群れの飛来が、渥美半島の初立池（渥美町）で本格化はじめた。豊川用水の貯水池として、1968年に完成した初立池は周辺を含めて鳥獣保護区に指定されている。狩猟期間が始まった15日以来、他の場所から逃げ込む群れも多く、人工の池がカモにとって安全な場所になっている。

（91.11.23 ）

◆失われゆく自然の宝庫◆

万博候補地を観察遊歩・・と海上の森が大きく取り上げられています。（91.12.2 中日）

◆葦毛湿原 枕木撤去 渡り板に◆

都市近郊の低層湿原として、全国から毎年5万人が訪れる豊橋市葦毛湿原の木道の枕木撤去作業は豊橋市豊橋市自然歩道推進協議会の約30人の協力で完了し、来年3月までにヒノキの脚付き渡り板による散策路、総延長約600mが完成する。（91.12.10 東海日日）

◆人工孵化全国初成功◆

愛知県水産試験場内水面分場（播磨郡一色町）は9日、養殖ウナギの人工孵化に全国で初めて成功したと発表した。これまで天然のシラスウナギを採取してそだてる養殖法だった。同分場で育てた親ウナギにホルモンを投与し産卵、孵化させた。しかし、今回は孵化後45時間で全て死滅した。今後は、孵化後の飼育が課題となる。（91.12.10 毎日）

◆建設やめ緑の森創造を◆

豊橋市が、豊橋公園に建設を予定している芸術会館などの建物の建設を取り止め、同公園を「市民の森」にし、隣接する沖野地区も水郷公園として整備、東三河の緑の核とするよう、自然保護団体など十二団体が20日連名で豊橋市長と市議会議長に陳情書を提出した。提出したのは、豊橋の文化を語る会、まちの木を大木にする会、三河生物同好会、豊川を勉強する会、豊橋自然歩道推進協議会、豊橋有機農業の会、豊橋ヤマアイの会、豊橋ホタルの会、豊橋ボタニカル・アートの会、カタクリの会、東三河自然観察会・東三河野鳥同好会の十二団体。

(91. 12. 21 毎日)

年報愛知の自然観察の原稿依頼

執筆予定の方には支部通信員のより連絡があったと思いますが、以下の要領をお願いします。ご多忙中恐縮ですが、提出期限については発行日が決まっていますので厳守を願います。

- ・原稿締切り 1月31日（厳守）
- ・1ページの字数は31号以前の協議会ニュースと同じで22字×42行の2ブロック（題字を含む）
- ・原稿提出先

〒463 名古屋市守山区小幡西新60
吉田 義人

編集後記

★新年あけましておめでとうございます！

1992年が会員の皆様にも、協議会にも、素晴らしい年でありますようにお祈りします。
★今年はサル年ですが、昨秋、上野動物園のサル山をのんびり観察する機会に恵まれました。ボスのロンは年老いており腕力では衰えがありますが、集團を把握する点では大変思慮深いサ

ルです。こまめに群れのなかを動き回ったり、長い時間をかけてグルーミングしてあげたりなかなかの気遣いです。

地球環境問題が呼ばれている昨今、生態系の頂点にたつ我々ヒトが自然に対してより多くの気遣いが必要ではないでしょうか。秩序ある生態系が維持されるように、観察会活動を通して今年も頑張りましょう。

★協議会も12年目を迎え、会員数の増加に伴う組織上の改革や行事の質的改善を検討しています。12月の理事会では、研修会の内容が固いのではとの意見が出され、会員の交流の時間も設けようということになりました。2月29日からの犬山での研修会は夜7時過ぎはたのしへい時間になりそうです。

★この協議会ニュースも隔月発行になり1年になります。次回から少しずつ内容を変えていく予定ですが、どうも「協議会ニュース」というタイトルが固いというご意見もあります。実は私もそう思っている一人です。他県のタイトルは鹿児島県「しぜんかんさつ」、新潟県「みんなの自然」、香川県「ネイチャー・ウォッチング」、福岡県「ネイチャーウォッチング ふくおか」京都府「森の新聞」埼玉県「あらかわ通信」、青森県「ブナの木」、島根県「おとしぶみ」、山梨県「ノラ・やまなし」等々で結構バライティに富んで個性的です。そこで、愛知県も「ハナノキ便り」「カキツバタ通信」「みどりの仲間」やAichi Nature Watcher Associationを略し「ANWA」とか考えてみましたが・・やはり、だめですかね。

★6回続いた、北岡明彦さんの「ちょっとひねった自然観察」が今回で完結しました。大変、御苦労様でした。また今回より、高橋康夫さんの「なぎさと浜の考現学」が6回シリーズの予定で始まりました。ご愛読の程。今年も多くの方々の投稿を、お待ちしています。次の38号（3月号）の原稿締切は2月10日です。

編集部会 〒440 豊橋市多米中町1-12-3

神戸 敦 ☎ 0532-62-5308

1月～3月の行事案内

*他支部の行事にも参加出来ますが、急な変更があるかもしれませんので照会の上、御参加下さい。

- ①主催 ②集合場所・時間 ③照会先
- ④行事のねらい ⑤参加資格・費用 ⑥備考

【1月12日（日）尾張支部月例観察会】

- ②犬山市善師野 ③大竹 勝 ☎0568-61-3659
- ④里山の冬鳥の観察
- ⑥午後は尾張支部の総会の予定

【1月19日（日）平成4年度奥三河支部総会

並びに作手高原自然観察会】

- ①奥三河支部 ②作手村役場前10:00
- ③石川静雄 ☎05362-2-1171
- ④新年度の事業計画等 ⑤会員 会食実費
- ⑥自動車参加

【1月25日（土）西三河支部親睦会】

- ②刈谷市洲原ロッジ（泊）

【1月26日（日）西三河支部総会】

- ②刈谷勤労福祉会館10:00～12:00

【1月26日（日）知多支部総会】

【1月26日（日）平成4年度東三河支部総会】

- ①東三河支部 ②西武セゾンホール 2:00
- ③鈴木友之 ☎0532-61-8930
- ④新年度の事業計画等 ⑥総会後、懇親会

【1月26日（日）豊田市自然観察の森観察会】

- ③豊田市自然観察の森 ☎0565-88-1310
- ④冬鳥をじっくり楽しもう

【2月26日（日）地層と巨木の観察会】

- ①知多支部 ③加藤寿芽 ☎0562-83-8425
- ④東海市内の地層と巨木の観察
- ⑤会員研修・一般参加可

【2月29日（土）～3月1日（日）指導員研修会】

- ①協議会 ②入鹿荘 犬山市篠平54
- ③山田博一 ☎0568-77-2154
- ④尾張本宮山のシダ観察等

【3月8日（日）「森のはたらき」観察会】

- ①知多事務所 ②東海市農業センター10:00
- ③知多事務所・林務課（田村）

☎0569-21-8111

- ④農業センターの裏山の森の様子・小鳥・土壤生物等を観察しながら遊ぼう、温室を見学しよう
- ⑤一般・無料 ⑥名鉄河和線・太田川駅徒歩10分、北東1.5キロ



会員の動き

〔住所変更・住所表示変更〕

小野木三郎

〒451 名古屋市西区城西 4-1 シローズ浄心
☎ 052-524-6594

黒田 章

〒463 名古屋市守山区西城 2-31 B-401
☎ 052-793-3115

光岡 晋

〒471 豊田市日之出町 2-7-6
☎ 0565-31-2581

〔名簿訂正〕

前回送付した会員名簿(11/1付)が誤っていましたので次の様に御訂正ください

村瀬正成 ☎ 0574-25-4785

武田 篤 NO.4923 武田孝夫 NO.894

武田平八 NO.2468 武田芳男 NO.3282

竹村武雄 NO.8077 玉井房子 NO.4925

多和田政彦 NO.1587 塚田桂子 NO.2469

半8000円10000
0574
65-1541
11
ヤドニギ